

会長あいさつ



長門会 会長 朱美 塩村 (旧姓久永) (昭49年卒・高26期)

老いてなお

やっと4年ぶりに、総会が開かれることになりました。感無量です。

この三年間、悲しい事、絶望する事、社会やマスコミに対する不満、不信、皆さま、様々な苦勞がありました。テレワークが

進んだ事、空が綺麗になった事、一人一人が、何かしら振り返り、考える時間が与えられた事。

私としては、読書の時間が増えた！と言いたいところですが、脳と眼の後退（寄る年波？）と、ネットサーフィンのせいで、むしろ読書量が減ってきたのが現状です。

そんな中、昨年読んだ本で心に残った一冊を上げます。

アジア太平洋賞特別賞を受賞した『危機の外交 岡本行夫自伝』です。作者は無念にも、例の流行り病で自伝の完成を待たずに亡くなりました。記したい事、溢れる思いはありますが、安倍晋三元総理の回顧録同様、読む方の立ち位置によって見える景色もそれぞれでしょうから、『一読の価値あり！』とだけ言っておきます。右にも左にもおぼれず、その時その時を命をかけて考え、動いた人の自伝だと思えます。

その代わり、本筋とは少し外れますが、岡本氏のお母様の和子さんのエピソードを記します。大恋愛の末親の反対を押し切って結婚。徴兵でハルビンへ渡った夫に会いに6歳の長男を連れて単独海を渡り、そこで岡本氏を懐妊。また単独帰国後は、夫不在の中幼い長男とお

腹の子を抱えて、血の滲むような苦勞の挙句、空襲で家は灰になりました。戦後の夫は戦争の亡霊に苦しめられ、人ともコミュニケーションが取れる人ではなくなっています。しかし彼女は挫けません。戦前大学を卒業していましたが、三人の息子が通った同じ高校に入学（通信）73歳の卒業式では総代として式辞を読んでいます。77歳で玉川大学教育課程に入学、四年かけて教育課程のほとんどを終わり最後の教育実習で躓きます。80歳を超えた彼女を短期間とはいえ、どの学校も迎え入れなかったのです。私が校長なら、こんな、経歴豊かな勇気ある女性は、お願いしてでも教育実習に来てもらいます。

『日本社会は一定の枠に人間を押し込める一略ー老人や女性が社会の規範からはみ出してノビノビ生きていける場所ではない』

彼女は一人でナップザック一つで世界中を旅行し始めます。旅行代理店のツアーは高齢の為参加をこたえられるから。私としては今は当時より社会がより進歩していると感じたいです。

『105歳になった彼女は、老人ホームで毎日、本を読んでいるが、反骨精神は今も変わらない』。

あやかりたい。

と、羨んではみたものの、やはりほんやりと、遠い世界の人のことではありません。ところが、先日、久しぶりに、同窓会役員に出たら、私より数歳年上の女性の先輩が、数年前から、慶應の法学部に学士入学して、レポート提出に徹夜の日もあり、今は卒業に向けての最後のふんばりとのこと。ひったまがりました。すぐ身近にチャレンジしている素晴らしい先輩がいっぱいいます。きつと蓋を開けたら、何歳になっても様々

な挑戦をしている先輩方が沢山いらっしやることでしょう。

私は今年で68歳になりますが、いつの間にか老いに対して達観した気になっていようです。足るを知る、と自分に言い聞かせていたように思います。

思い出しました。

子育てにひと段落ついた40代。生まれて初めて自ら学びたくなって放送大学の三年に入っていたら、2年で卒業のところを、あまりに楽しくて制限ギリギリ8年通った日々。幕張の図書館で聞いた世界最古の笛の音と、笙の音色のそっくりだったこと。空気を切り裂くような鋭い高音にゾッと鳥肌が立ち、これこそ神おろしだ！と勝手に納得したこと。人間国宝の父を持つ池端慎之介（ピーター）の女舞が息を呑むほど美しく、泣いてしまったこと。卒業してからも、未練がましく哲学の教授のゼミに忍び込んだ日々。

達観して、穏やかに生きて行くイコル感性が鈍化し、チャレンジ精神をなくすことではありませぬ。

穏やかに、かつしたたかに鋭く、未知への挑戦を恐れずに生きていきたいものです。

〈参考文献〉

『危機の外交 岡本行夫自伝』（2022）著者 岡本行夫、株式会社新潮社

〈略歴〉

塩村・朱美（旧姓久永） 49年卒業 高26期、青山学院女子短期大学国文科卒
子育て後 学士習得
資格 英検一級
趣味 読書 ベリーダンス 羽生結弦
中国語学習
特技 足で鶴を折ること

訃報

関東龍門会元会長（昭和25年卒・3期）の酒匂昭男様が昨年12月15日ご逝去されました。

長らく誤飲性肺炎にてご体調を崩されて闘病中でした。

関東龍門会のご隆盛に深く貢献戴き、只々感謝の念が尽きませぬ。

また関東龍門会の役員会合だけに留まらず、てんがらもん会同窓会等でも優しい笑顔で様々な御教示を賜ったのが今でも目に浮かびます。

心よりご冥福をお祈り申しあげます。



「加治木高校の近況報告」

一年を振り返って



鹿児島県立
加治木高等学校長
宇都尚美先生

関東龍門会の皆様には、平素より母校へのご支援を賜り心より感謝申し上げます。昨年4月に母校に赴任いたしました高36期（昭59年卒）の宇都と申します。どうぞよろしくお願いたします。

コロナ禍3年目となった令和4年度の教育活動は、コロナ前の状況に戻りつつあり、生徒たちは充実した学校生活を送りました。



令和5年2月28日には第75回卒業式が執り行われ、282名の卒業生が学び舎を巣立っていきました。末永同窓会長をはじめとする同窓会役員の皆様、関東龍門会副幹事長の西

追様にご列席を賜り、厳粛な中にも心温まる卒業式となりました。前日には同窓会入会式も執り行われ、75期生の代表幹事2名が加治木高校同窓会入会への想いを語り、龍門会の絆を深めました。75期生はコロナ禍の3年間で、様々な制約を乗り越えてきた学年です。学校行事は自分たちで工夫を凝らし、実現可能な形へと繋げていきました。その清新澁刺とした輝きはコロナ禍の自粛でかすむようなものでは決してありませんでした。「よく頑張った」の一言につきまます。仲間とともに試練に立ち向

かつて過ごした加治木高校での学びが人生の土台となり、これからの社会の創り手として全国各地で活躍してくれるものと期待しているところです。卒業式で75期生と初めて斉唱した校歌は私にとっても感無量であり、忘れられない思い出となりました。



様々な形でご支援をいただきました。先輩が後輩に贈る龍門講座」

は1年生を対象に同窓会員を講師として、それぞれのテーマで講座を開催することができました。先輩の母校への熱い想いが後輩に引き継がれ、在校生が自分の生き方を考えたり、各分野に興味関心を持つたりする絶好の機会となりました。創立120周年記念継続事業である「海外短期研修事業」及び「国内派遣事業（龍門の櫻）」は感染防止のため中止となりましたが、前年度に引き続き、その予算の一部を原資として、「県立加治木高等学校特別奨学金」事業を実施していただき、経済的に困っている生徒たちの家庭の負担を軽減することができました。この事業には、関東龍門会からも寄付金をいただいております。その温かい支援に厚くお礼申し上げます。また、海外派遣を期待していた生徒たちに対しては、「東進 English Workshop」参加への提案もいただき、参加費の支援をしていただきました。オンラインによる国際交流の体験は進路実現の一助となり、感謝しております。

今年2月には関東龍門会の塩村会長と満留副会長が母校を訪れてくださいました。

6月3日に皆様が待ち望んでいらつしやる関東龍門会総会が開催されるということで、私もぜひ参加させていただきたいと申し上げたところでございます。皆様にお目にかかれることを楽しみにしております。

この原稿を書いている今、校内の樹木は春の訪れをじつと待っています。今年1月には鹿児島も極寒に見舞われ加治木でも雪が積もり、正門横の銀杏の木は、冬芽がその寒さに耐えてきました。グラウンドを囲む桜の木々も、もうすぐ開花するでしょう。学校では新入生を迎える準備が始まります。在校生・職員一同、今後ますます精進してまいりますので、どうぞ温かく見守っていただきますようよろしくお願いいたします。

終わりに、関東龍門会のみならずのご発展と会員の皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。



お礼 美術部卒業生からの イラスト提供

今回の会報発行にあたって、今年美術部卒業生に、高校生のイラストを4枚書いてもらいました。高校生らしい素敵なイラストで各ページに分けて掲載しています。美術部卒業生の皆さん、ありがとうございました。

【寄稿いただいた美術部卒業生】
萩原 望央さん（隼人中卒）
西屋敷華琳さん（吉田南中卒）
鹿島 寛徳さん（重富中卒）

■鹿児島県内 普通科設置の主要公立高校合格状況

鹿児島県教育委員会HPより抜粋
(令和5年3月16日、3月24日発表)

高校名	学科	募集定員	合格者数
加治木	普通	320	314
鶴丸	普通	320	320
甲南	普通	320	320
鹿児島中央	普通	320	320
鹿児島玉龍	普通	123	123
錦江湾	普通	160	116
	理数	80	48
	計	240	164
武岡台	普通	240	240
	情報科学	80	80
	計	320	320
松陽	普通	240	240
	音楽	40	34
	美術	40	40
	計	320	314
国分	普通	280	202
	理数	40	28
	計	320	230
蒲生	普通	80	47
	情報処理	40	33
	計	120	80
指宿	普通	120	74
加世田	普通	120	82
川内	普通	280	280
出水	普通	160	91
志布志	普通	120	107
鹿屋	普通	240	190
大島	普通	280	211

コロナ禍にあっても、がんばれ！ 加高生！！ ～令和4年度同窓会奨学金への寄付のご報告～

新型コロナウイルス感染症に振り回される日々も3年が経過しました。ようやくマスク着用が個人判断となり、この5月には感染症第5類への変更が行われる予定で、徐々に日常を取り戻しつつありますが、関東龍門会会員の皆様におかれましては、まだまだ何かとご苦労が続いていることかと推察します。

創立120周年の同窓会記念事業として始まりました海外派遣事業及び国内派遣事業（通称「龍門の櫂」）は、令和2年度～4年度と3年にわたり実行出来ていません。同窓会では、この記念事業に充てるはずであった予算を、新型コロナウイルス感染症拡大により経済的な影響を受けた生徒への奨学金として、令和2年度～4年度の3年間にわたり支給しております。

関東龍門会では、この奨学金の趣旨に賛同し、会員の皆様からいただきました寄付の中から、令和2年度、令和3年度に引き続き、令和4年度も金20万円を、この奨学金の原資として活用していただくべく、同窓会に寄付させていただきました。

会員の皆様のお志が、母校に学ぶ後輩たちの支援になります。同時に会員の皆様への感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。

今年の夏には、国内派遣事業（通称「龍門の櫂」）が再開される見通しです。引き続き関東龍門会は出来る限りの協力をしてまいります。

関東龍門会役員一同



『なぜ、教師になるキャリアアを捨てて東京で就職することを選んだのか』

平成28年卒（68期） 宮田雅也さん

「大学院まで行って教育を学んだのに教師にならないんだ！」と多くの人に言われながら、東京で会社員になる道を選んだ想いと、これからの未来について書きたいと思います。

父が教師だったこともあり、大学を選ぶ際には漠然と「僕も教師になるかな」野球部の監督とかできたら楽しそうだな」と思い、教育学部へ進学することに決めました。もともと人に教えるということは好きだったため、教育について学ぶことは非常に楽しく、教師になることに迷いはありませんでした。そして、教師になるならもっと専門知識を学びたいという思いで、大学院に進学することを決めました。

大きな希望を持ちながら大学院に進学したタイミンで、コロナウイルスの感染拡大により生活は一変しました。大学に行くこともできず、オンライン授業を受ける日々。そんな日々の中で、自分が将来やり



◇高校時代の野球部メンバー
(写真左から2番目が私です)
同期の結婚式で久しぶりの再会



◇会社員してます（笑）

たいことはほんとにこれなのだろうかと思える時間が増えていきました。悩んだ1番の理由は、社会のことを何も知らない、資本主義なのにビジネスのことを知らない、そんな状態でただ学習指導要領に書いてあることを教えるだけの教師にはなりたくないと考えたからです。現在は、VUCA時代と言われており、未来の予測が難しいとされています。実際に、コロナウイルスの影響により、社会の変化は大きく加速しました。AIやITが大きく進化し、その波に乗れない会社はどんどん縮小したり廃業したりしています。現在の小学生が将来仕事に就くときには、多くの人が今はない仕事に就くとまで言われるほど社会の変化は激しくなっています。そんな時代だからこそ、流行や時代の変化における中心である東京で仕事したいと思うようになりました。

今私は、営業コンサルティングの会社でマーケティングの支援をしています。学生的时候は、マーケティングという言葉に全く触れてこなかったため、わからないことだらけで日々四苦八苦しながら仕事を

しております。まだまだ未熟者の私ですが、大きな夢があります。それは、マーケティングの力で日本の魅力を海外にもっと発信することです。日本はマーケティングが弱いといわれています。美しい自然や美味しい食事、おもてなしの心、観光地など多くの魅力があるにもかかわらず、世界にそれを発信する力が弱いのです。私は、日本の魅力を世界にもっと知ってもらい、インバウンドを今以上に増やし、日本の経済を発展させたいと考えています。そして、少子高齢化社会の日本でも豊かに暮らせる未来を創造したいと思っています。まだまだその理想を実現するには力が足りなすぎるので、これからさらに自己研鑽に励むことをここに誓い、結びの言葉とさせていただきます。今回、このような会報に私の言葉を載せていただきありがとうございます。

宮田雅也（みやたまさや）さんは高68期、帖佐中出身。鹿児島大学教育学部卒業後、広島大学大学院人間社会科学部研究科を修了され、現在は東京の営業コンサルティング会社に勤務されています。趣味は、お酒を飲むこと、麻雀、サウナ、観葉植物を育てること。今後のますますのご活躍を期待しています。





2020年から鹿児島に戻られ、大学病院で最先端の医療に従事されている大塚隆生さんに寄稿いただきました。

「外科診療と研究、教育のグローバル拠点形成」

大塚隆生さん（昭和63年卒・高40期）



〔略歴〕 1994年九州大学医学部卒、九州大学第一外科入局。2001年米国ハーバード大学医学部研究員、2003年佐賀大学一般・消化器外科、2009年九州大学第一外科。2020年鹿児島大学消化器・乳腺甲狀腺外科教授、2021年鹿児島大学病院特命副院長兼任、現在に至る。専門は消化器外科（特に膵臓・胆道外科）、低侵襲手術（腹腔鏡下・ロボット支援下手術）、がんの基礎研究。

「グローバル」は「グローバル」と「ローカル」を合わせた造語で、「グローバル拠点形成」とは、地方にしながら世界に向けた情報発信と世界的に活躍する人材育成を行う研究・教育機関を目指す鹿児島大学の基本理念です。医学部の場合にはこれに診

療が入ります。鹿児島では島津の治世から薩摩藩英国留学生に代表される世界に目を向けた教育が行われてきており、時代を先取る「進取の精神」を表す、まさに鹿児島大学に相応しいスローガンです。私が責任者を務める医学部外科科学教室でも、診療だけでなく、将来のより良い医療へつなげる研究と、学生や若手医師の教育を行っています。したがって私は医師であるとともに、研究者、教育者としての役割も果たさなければなりません。高校卒業以来30年以上鹿児島を離れていましたが、故郷で地域医療と人材育成に携わる機会を頂いたことは大変幸運なことです。また末永豊邦同窓会長をはじめ、多くの加治木高校出身の先輩後輩と一緒に仕事をする機会も多く、大きなやりがいを感じています。

医学は不確実な科学です。人間の身体や病気を数学や物理の公式のような法則で全て語ることはできません。最先端の治療で完治できる確率を上げることができませんが、100%の患者さんを治すことはできません。これを100%に近づけていくために医学研究が行われるわけです。また患者さんは多様な考え方を持っていて、治る可能性が高い治療法があっても、経済的な理由や身体的な問題から治療を受けない、という選択をした場合にはそれを尊重します。私たちが扱う病気の多くは「がん」です。患者さんの多くは私たちより年長で、「がん」という人生最大の危機の治療を私たちに託すわけですから、私たちもそれに応えるに足る知識と技術、そして人間性や倫理観を持ち合わせていなければなりません。この人間性や倫理観の拠り所となるのが感性（美的感覚や惻隱の情）です。医学的知識や技術を私たちが教えることはできませんが、感性を身につけるには自己努力に拠るところが大きく、また生まれ育った環境にも大きく左右されます。社会に出ると答え

のない、あるいは複数の答えのある問題に、一つの答えを出さなければならぬ場面を数多く経験します。この判断材料となるのが感性です。そのため豊かな感性を身につけなければならぬのは、医療の世界に限らず、どの職業に就いても同様です。都会の進学校出身者よりも豊かな自然と文化に育まれた地方の公立高校出身者のほうが豊かな感性を身に着けやすいと言われており、加治木高校からも多くの感性豊かな若者が巣立っていくことを願っています。

医学研究は様々な病気のより良い診断法と治療法、予防法を開発するために行われますが、研究には医療従事者の論理的思考能力を養う効果もあり、そのため多くの医師が若い時期に研究を行います。日常臨床では想定外のことが起こることも多く、それがなぜ起きたかの仮説を立て、それに基き次の対策を講じ、その事象が解決されるかどうかを検証し、結果を考察します。すなわち「疑問に対して仮説を立て、それを検証し、考察する」という過程を日々の診療で実践するわけで、これを医師は生涯にわたって続けます。研究成果の多くは論文で発表されますが、英語で執筆すれば世界中の人に読んでもらえます。医療の世界ではどんな僻地にいても、学会や論文発表を通して世界に情報を発信することができ、まさにグローバルを実践できるわけです。私が専門とする膵臓外科手術の鹿児島大学病院年間件数（2022年）は全国の国立大学病院中最多で、多くの若手外科医が執刀する機会に恵まれています。また世界の著名な研究所との共同研究に若い外科医が参加し、がんの基礎研究でも最多のサンプルを出すことができ、世界に「Kagoshima University」の名前を知ってもらえることができました。鹿児島にいますからグローバルな拠点形成が着実に進んでいます。

大学に限らず社会の一員としての重要な役割に人材育成があります。どうしても自分の利益や栄誉を求めがちですが、稲盛和夫氏の「利他の心」を忘れずに、人材育成を楽しめるような社会になつてもらいたいと思います。外科領域では手術や研究の指導力が私たちの重要な評価指標でもあり、自身の手術執刀や研究成果発表と同等かそれ以上の評価が与えられます。これは万国共通で、世界中の外科医が知識や技術の次世代への継承が重要であることをよく理解しているからです。私が執刀すれば早く確実に終わる手術でも、安全性を担保したうえで敢えて若手に執刀してもらおう機会が最近が増えてきました。この点は患者さんにも次世代の外科医育成に協力していただくことになりました。私もそうして一人前の外科医に育ててもらいました。今後も鹿児島大学発のグローバルな活動に注目していただきたいと思えます。



〈関東龍門会〉(令和4年度)事業報告

幹事長 海江田健司(昭63年卒)

〈活動報告〉

- ①令和4年度総会は3年連続で、新型コロナウイルスの影響により中止となりました。
②議事として会計報告、年度事業計画等を討議しました。
③令和4年度(令和4年4月1日〜令和5年3月31日)は、常任幹事会2回、臨時役員会3回(オンライン)、会報編集委員会3回開催し、令和4年度の行事と会報発行を滞りなく遂行しました。
④母校発展のために寄与する同窓会活動の根幹事業として「龍門の櫻」の準備業務に向けて会議を行いました。
⑤前述の通り、令和4年度も、本部同窓会が加治木高校在校生に対し実施している「コロナウイルス禍対応特別奨学金」へ、関東龍門会として20万円の寄付を実施しました。

各同好会活動もコロナ禍で開催がままならず今年度後半以降の活動を目指しております。改めて各同好会の紹介をいたします。
ゴルフ同好会
(幹事)川井田信雄(高・昭45)
(TEL)043-1250-4478
(TEL)044-522-9815
(幹事)山元真之(高・昭49)
(TEL)044-522-9815
⑦関東龍門会ホームページは次のQRコードからアクセスできます
(http://ryumonkaikan.jp/)



◆年会費納入のお願い

関東龍門会の運営は会員皆様方の会費と寄付で賄われており、それらは主として会報制作費と発送費用に充当されております。
会員サービスを充実するためには皆様の会費納入が絶対不可欠です。何卒、会費納入にご協力をお願い致します。

◆ご寄付への御礼とお願い

毎年、会報および総会の席上で寄付金お申し出を承っております。令和4年度も総会中止にも関わらず、会員個人・団体合わせ136名の方々にご賛同頂き、116万5千円と、前年度を上回る篤志を頂きました。会運営に深いご支援を賜り誠にありがとうございます。厚く御礼申し上げます。
なお、ご寄付に当りましては、「払込取扱票」をご利用頂き、金額欄に会費と寄付金額を合算した額をご記入ください。

◆関東龍門会への入会促進と総会・懇親会へのご参加お願いします

関東龍門会の存在をご存知ない方やこの会報が届かない方がおられましたら、ご遠慮なく事務局へご連絡ください。
連絡先は
幹事長 海江田健司
(TEL)090-4662-3617
顧問・前原澄雄
(TEL)080-5430-7488
副会長 木佐木学
(TEL)090-2218-5384
顧問・山下憲男
副幹事長・西迫宏文
(株)ヒューマンウェア内、
TEL)03-03282-7511

また、ご出身地毎の郷土出身者懇親会や、知人・ご親戚の方で同窓生がいらっしゃいましたら、是非とも呼びかけていただき、本総会・懇親会のご案内及び総会へお誘い合わせいただき、出来るだけ多数の同窓生の方々がご参加されるよう何卒宜しくお願い致します。
なお、同期生や知人・ご親戚の同窓生で当会未登録の方にも、お声掛けをお願いします。

※学生は年会費・懇親会費全て無料です。気軽に参加ください。お待ちしております。

〈関東龍門会〉令和4年度役員

(令和5年3月31日現在) ※ () 内は卒年

- 〈会長〉塩村[久永]朱美(昭49)
〈副会長〉川井田信雄(昭45) 木佐木学(昭46) 若林[高山]凉子(昭46)
満留友和(昭53) 大岩根正浩(昭54) 枝元真徹(昭54)
〈幹事長〉海江田健司(昭63)
〈副幹事長〉中野悦朗(昭46) 上加世田策(昭47) 西迫宏文(昭55)
中野広行[会計担当兼任](昭58) 久保裕(昭61)
〈監事〉中村信二(昭45) 井下修(昭48)
〈常任幹事〉松野下[田村]淳子(昭49) 最勝寺久尚(昭49) 徳永哲二(昭49)
堀之北[前原]かすみ(昭49) 山元真之(昭49) 佐藤[境田]安子(昭51)
淵邊善彦(昭58) 今市憲一郎(昭59) 松元功(昭62) 西原真仁(平03)
川畑翔太郎(平17)
〈顧問〉今村彬(昭25) 本田勝(昭35) 中山憲一郎(昭35)
藤島[増田]義行(昭37) 海江田怜(昭40) 北野正英(昭40) 山下憲男(昭41)
國生幸一(昭42) 前原澄夫(昭43) 重村博文(昭43)
〈参与〉徳永正幸(昭39) 相羽孝師(昭39) 藤崎[徳田]マリ子(昭40)
谷口幸一(昭42)

〈学年幹事〉(各期)各学年・卒業期毎に数名(掲載省略)

※各事業担当責任者

- ☆(ゴルフ同好会)川井田信雄(昭45) (補佐) 福村正美(昭53)
☆(囲碁同好会)山元真之(昭49) (補佐) 田原孝志(昭49)
☆(会報編集委員会)西原真仁(平3) (補佐) 久保裕(昭61)、松元功(昭62)
☆(国内派遣事業)西迫宏文(昭55) (補佐) 川畑翔太郎(平17)
☆(SNS担当責任者)海江田健司(昭63) (補佐) 西原真仁(平3)

令和4年度寄付者ご氏名(敬称略)

- (20年)野元保弾 (21年)野中隆一郎 外山一清 (24年)小城忠行 杉田宏
(25年)大重幸子 森山耕二 高城 弘世・順子 横山和也 (26年)加治木正紀 城正之
古川耕一 (27年)吉川悦郎 松屋勝己 新村敏郎 伊藤良治 (28年)荒田洋子
(29年)永長隆房 (30年)石田照子 (31年)杉田 脩 (32年)坂元亨 窪田幸男
石野忠 (33年)安田照雄 尾崎初代 (34年)別府睦雄 松元典郎 (35年)本田勝
松金瑛子 中山憲一郎 鶴田観治郎 重信龍男 (36年)重森英樹 山崎巖 鶴飼美智子
了徳寺敏憲 高橋みち子 松田士郎 中島良一 児玉重人 (37年)石宇テルエ
肥後カツ子 下川原寿 藤島義行 松林まりこ 米増洋昭 (38年)松原五夫 米山滋子
増田久宜 河野正美 (39年)福村道幸 徳永正幸 相羽孝師 渋谷晃一 柿元邦彦
(40年)藤崎マリ子 北野正英 堅山達一 垣内忍 海江田怜 川口千鶴子
(41年)安田 文二 海田京子 小濱洋子 福重利夫 中村順一 西郷宏 大串久美子
荻原町子 山神健一 黒川幸治 北原源平 藤崎博一 (42年)鎌田修 藤井豊幸
國生幸一 有馬純一郎 (43年)前原 澄雄 大久保令子 松永吉郎 重村博文 竹田茂隆
矢野雅子 七反田篤夫 石川良子 永元幸雄 鷺山信 (44年)岩井隆一 福元俊雄
(45年)大村登喜子 中村信二 葉山忠 (46年)木瀬久幸 藤本ユミ子 堅山幸男
若林凉子 茶木美代子 (47年)梅橋嘉博 上加世田策 上原三枝子 (48年)大窪守
井下修 (49年)塩村朱美 田原孝志 福島恵子 堀之北かすみ 中村俊文 山崎純江
山元真之 徳永哲二 松野下淳子 最勝寺久尚 (50年)佐藤三恵子 有村優 稲恒芳郎
(51年)楠田靖紀 泉晴幸 (52年)金子智子 (53年)宮原絹子 引地隆久 矢野義信
(54年)枝元真徹 脇岡弘典 大岩根正浩 (56年)市来さゆり (58年)淵邊善彦
中野広行 (60年)石野明子 (61年)福田健 久保裕 (63年)海江田健司
(H3年)西原真仁 (その他)小城健二 花園歌子 匿名(1名)
〈加治木高校同窓会本部〉 (卒年)

〈令和3年度 会計報告〉

(会計幹事)中野広行(昭和58年卒)

関東龍門会 令和3年度(令和3年4月1日〜令和4年3月31日)

Table with 4 columns: 収入の部(単位:円), 支出の部(単位:円), 科目, 決算. Rows include items like 年会費収入, 総会費収入, 寄付金収入, etc.

(注) 当会報による報告は、決算月日の関係上、令和3年度の会計報告です。令和4年度の会計報告は、令和5年度の承認手続きを経て、当会報令和6年号において報告します。

〔備考〕

- (※1) 令和3年度総会はコロナウイルス禍により、残念ながら3年続けての中止となりました。
(※2) 令和3年度年会費納入者は248名。
(※3) 令和3年度寄附者136名(寄附者ご氏名は当会報令和3年度号に掲載済)。
(※4) 印刷関係費は、会報、案内状、送付用封筒等の印刷費用です。
(※5) 本部同窓会が、在校生の支援として実施している「コロナウイルス禍対応特別奨学金」に寄付を行いました。

〔編集後記〕

◆新型コロナウイルスによる制限も緩和され、WBC日本代表・侍ジャパンの活躍、日本中が湧きかえり、ようやく社会が活を取り戻しつつある今日この頃ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか？
◆今号も新大生の方から、関東で活躍中の大塚隆生さんにお忙しい中、寄稿して頂き大変感謝しております。

◆改めて快く寄稿して頂きました皆様、誠にありがとうございます。今年6月には4年ぶりの総会開催の見込みです。総会の場々皆様にお会い出来ることを楽しみにしております。

◆なお今回の会報から編集責任者を前任の久保裕さんから西原が引き継ぎました。久保さん、これまで本当にありがとうございました。

今号は左記の方が編集作業に携わりました。
西迫宏文
中野広行
松元功
海江田健司
編集責任者 西原真仁
(平成33年卒・43期)